

放射線科 放射線診断科、放射線 I V R 科、(放射線治療科)

1 研修目標

(1) 一般目標

- ① 放射線科関連検査の種類およびその原理、方法、適応、禁忌を理解する。
- ② 放射線障害の予防の基本について理解する。
- ③ 診断に有用な画像診断の基礎的知識を身につける。
- ④ 画像ガイド下生検や血管造影の基本的手技を理解する。

(2) 行動目標

- ① CT、MRI、核医学検査、IVR などに従事し、検査の流れと各々の特色を理解する。
- ② 画像診断に必要な解剖学を理解する。臨床で遭遇する頻度の高い疾患の画像診断上の特色を理解する。論理的な思考の上から診断に至ることを努める。
- ③ 検査に対する診断報告書を作成する。放射線診断専門医に報告書をチェックしてもらい、読影力を高める。
- ④ 正しい検査のオーダーの仕方（臨床情報提供の必要性）を理解する。
- ⑤ 造影剤の種類、適応、使用方法、副作用を理解し、副作用発生時の対処法を習得する。
- ⑥ 患者の状態に配慮し、患者やスタッフと適宜コミュニケーションをとることができる。
- ⑦ 放射線生物学の基本を理解する。一般人、患者、医療従事者の放射線被曝防護を理解する。
- ⑧ 院内のカンファレンスに参加する。

(3) 学習方略

行動目標	方法	場所	担当者
①④⑤	実地診療	検査室	指導医
②③④⑦	実地診療、自習	読影室	指導医
⑥	実地診療	検査室	指導医、診療放射線技師、看護師
⑧	カンファレンス	読影室	放射線診断科・IVR 科医師全員

2 研修方法

期間は1か月間（実研修日数17日以上）とする。

指導医の指導のもと、中央放射線部の検査（CT、MRI、核医学）を担当する。

画像診断報告書を作成し、指導医による添削を受ける。

検査法、画像診断学の基本について学ぶ。

IVR には指導医とともに検査に入り、目的、手技、適応を学ぶ。
カンファレンスにおいて、画像所見のプレゼンテーションを学ぶ。

3 研修責任者

放射線診断科	部長	小池	繁臣
放射線 IVR 科	部長	川俣	博志

4 研修指導医

放射線診断科	部長	小池	繁臣
放射線診断科	副部長	永田	延江
放射線診断科	医師	KISS	BORBALA
放射線 IVR 科	医師	寺内	幹

5 評価

指導医は研修終了時に目標の達成状況を判定し、評価表に基づき評価する。看護師、診療放射線技師などコメディカルスタッフも研修医の研修態度の評価に加わる。

※ 現在、放射線治療科では初期研修医の研修は受け入れていない。

ただし、放射線診断科、放射線 IVR 科を研修中に放射線治療科を見学することは可能である。